

メッセージアウトライン

創世記 1:24 ~30 「人の創造」

[24-25]「神は仰せられた。『地が、種類にしたがって、生き物を生ぜよ。家畜や、はうもの、野の獣を、種類にしたがって。』そのようになった。神は、種類にしたがって野の獣を、種類にしたがって家畜を、種類にしたがって地のすべてのはうものを造られた。神はそれを見て良しとされた」

ここでは陸の生物に関して総括的に取り扱われている。神が造られた地の動物は「家畜、はうもの、野の獣」としてまとめられている。「家畜」とは飼育できる動物、「はうもの」とは地面に接してはったり、のろのろ歩くすべての動物、「野の獣」とは大きな野生動物を指していると思われる。またそれはライオンや象のような大きな哺乳類だけではなく、おそらく恐竜として知られている絶滅した大きな爬虫類をも含んでいたことであろう。この分類は人が作った分類学の両生類、爬虫類、哺乳類、昆虫などの系とは関係なく、動物に対するもっとも自然な分類方法であろう。そして24節と25節では動物の順番が入れ替わっていることからわかるように、これらの地の動物の三つの部門は、同時に造られたのである。進化論的順序では昆虫から両生類、ついで爬虫類、鳥類、最後にすべての哺乳類が登場するがそれらは創世記1章が教えていることと全く違う。また順序としては鳥類はこれらの生物出現の前日（第五日）に造られたのである。→1:21 神は種類にしたがって、このように陸生生物を造られ、それを見て良しとされた。今や地球はそれを支配し管理するための人間の住み家として、十分に整えられた。

[26-27]「神は仰せられた。『さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように』

神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された」

今までの神の創造は「神は仰せられた。……があれ。」ということばに続いてすぐに起こった。しかし、ここではお互いに呼びかけるような表現で「さあ人を造ろう、われわれのかたちとして、われわれに似せて……」と語っておられる。これに関してはおもに三つの解釈がなされてきた。①神と御使い（天使）たちとの合議。②神の主権と全能を強調するために「われわれ」という複数形が用いられている。③父、子、聖霊の三位一体の神の本質の現れで神の三位格がお互いに話し合いをしておられる。このうち①の解釈はこの場合当てはまらない。なぜなら人は天使にではなく神にかたどって造られようとしていたからである。②神の主権と全能の強調であるとしても、1章全体にわたって「神」ということばが主語として用いられているのに、この箇所だけにだけなぜ突然「われわれ」ということばが用いられているのか整合性が問われる。詩篇 110:1、ヨハネ 14:23,17:5,17:24 等からも③の解釈が最も良いと思われる。

三位一体の神は人を「われわれのかたちとして、われわれに似せて」造ろうと言われた。これは神が人間と同じような体を持っておられるということではない。神は肉体を持ったお方ではなく霊なるお方である。→ヨハネ 4:24 「神

のかたち似せて造る」とは、人を永遠の霊を持つ存在、道徳的良心、抽象的に物事を考える能力、美や感情の理解、そして神を礼拝し、神と交わり、神を愛する力を持った存在として造るということである。では肉体は何の価値もないかということではなく、神が肉体なしでも成し得る働きを人ができるようにその体をデザインし、造られたのであり、信仰者にとっては聖霊の宮となる。→Ⅰコリント 6:19 やがて神のひとり子もこの世の救いのために人となって来られる時が来る。

神は「男と女とに彼らを創造された」とあるが、神が創造された「人」とは男と女を含めた包括的な用語であることがわかる。この男女の肉体形成の詳細は2章に記されている。こうして人は他の動物とは違って、創造主なる神と個人的な交わりを持つことができる存在として造られたのである。

[28-30]「神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。』神は仰せられた。『見よ。わたしは、全地の上にあつて、種を持つすべての草と、種を持って実を結ぶすべての木をあなたがたに与える。それがあなたがたの食物となる。また、地のすべての獣、空のすべての鳥、地をはうすべてのもので、いのちの息のあるもののために、食物として、すべての緑の草を与える。』そのようになった」

人に与えられた最初の命令は「生めよ。ふえよ。地を満たせ」であった。人が地上に増え広がり、増え広がった多くの人々が神の創造の秩序の中で喜びのうちに共存する。ここに神の祝福がある。そしてそれに加えて「地を従えよ。…すべての生き物を支配せよ」との命令が与えられる。これはこの地および神によって造られたすべての生き物が本来の目的を果たし得るように管理し、治めることを意味している。そして神は人および地のすべての獣、すべての鳥、地をはうすべてのいのちの息のあるものに食物として実を結び、種を生じる草や木（植物）を与えると言われた。このように創造の最初の時点では人も動物も動物性の食物（肉）を食べるようには意図されていなかったことも教えられる。これが変わるのはノアの洪水後のことである。→創世記 9:3

神は創造の六日目に陸の生物と人を造られ、その食物として植物を与えられた。特に神は人をご自身のかたちとして創造され、永遠の霊を持ち、神を礼拝し神と交わることのできる特別な存在として造られ、地に増え広がることと、その地とすべての生き物の支配と管理を任されたのであった。

確かに人は神によって創造され、祝福された特別な存在であったが、現在のこの世界を見る時に神の仰せられたようには支配し管理していないことがわかる。確かに人はこの地に増え広がり科学技術は進展し、この世界を治めているように見えるが、乱開発によって地球環境は汚染され、エネルギー資源は減少し、人間どうしが憎み合い、争い、戦い、不公平と搾取は増大し、この世界はますます混乱の度を深めている。神がお造りになったすべてのものは良いものであったが、人間の罪がこの世界を呪われたものにしてしまった。→創世記3章 しかし、神はその問題の解決のためにこの世界に救い主を送られるのである。→ヨハネ 1:9~12、3:16 そして救い主イエス・キリストによって罪贖われた人間は、もはや罪や死や呪いのない新しい世界に神とともに生きることになるのである。→黙示録 21:1~5